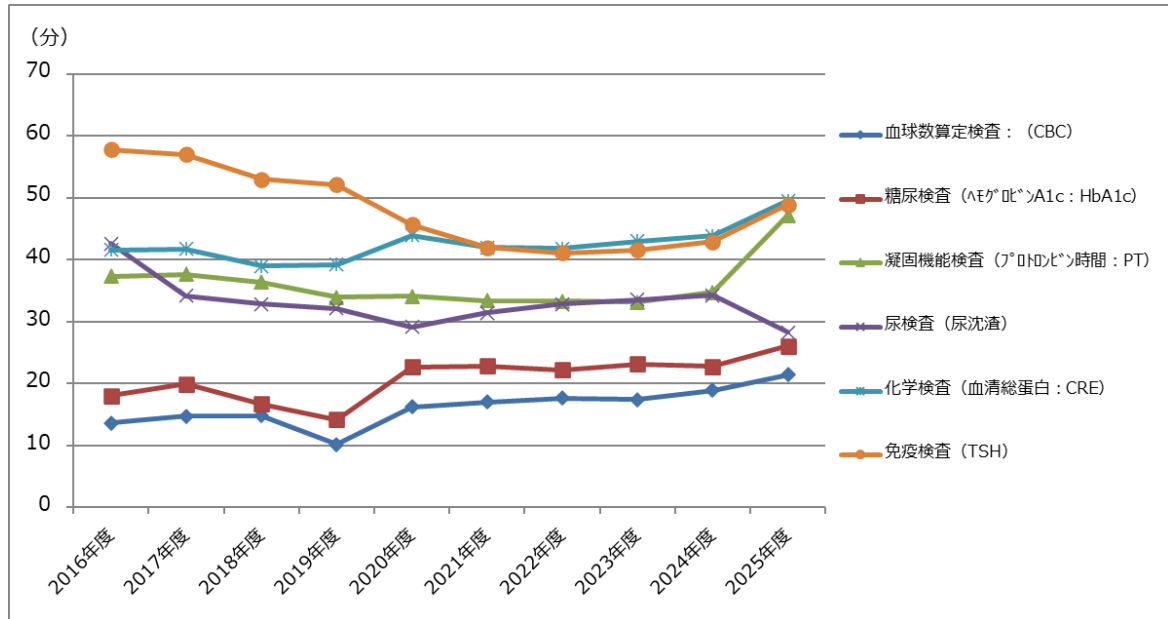


検査に要した時間の推移

検査結果平均報告時間



「検査に要した時間の推移」では、採血・採尿完了から検査結果報告までの平均所要時間を評価している。これは待ち時間に影響する重要なサービス指標の1つであり、臨床検査部ではTAT（Turn Around Time）として目標値を設定し、毎月評価を実施している。

2025年度は5月6日に検体検査全体の機器変更が行われ、検体検査システムと各測定機器の総入替、および全自動搬送システムが導入された。

化学検査および免疫検査は、大型搬送システムの導入に伴うレーン延長のために、検査結果報告時間が2024年度と比較してやや遅延した。搬送システムの導入は、自動化が進む一方で、手作業での機器搭載よりも時間を要する。凝固機能検査は2025年度から自動搬送が導入されたため、2024年度の手作業による機器搭載と比較して、平均10分以上の遅延となった。

一方、尿沈渣においては、新規導入の尿沈渣分析装置により顕微鏡下での目視確認が減少し自動化が進んだため、検査結果報告時間が短縮した。

新システムの導入に伴い、複数の検査で平均検査結果報告時間の延長が認められるが、引き続き報告時間を短縮できるよう継続した改善を行っていく。